

U.S. Indicators

発表日: 2019年1月3日(木)

米国 18年12月ISM製造業景気指数が急低下

～先行き不透明感の強まりで新規受注が大幅減速～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:03-5221-5001)

ISM製造業景気指数の推移

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
17/12	59.3	67.4	65.2	58.1	48.5	57.2	54.9	68.3	57.6	56.5
18/01	59.1	65.4	64.5	54.2	52.3	59.1	56.2	72.7	59.8	58.4
18/02	60.8	64.2	62.0	59.7	56.7	61.1	59.8	74.2	62.8	60.5
18/03	59.3	61.9	61.0	57.3	55.5	60.6	59.8	78.1	58.7	59.7
18/04	57.3	61.2	57.2	54.2	52.9	61.1	62.0	79.3	57.7	57.8
18/05	58.7	63.7	61.5	56.3	50.2	62.0	63.5	79.5	55.6	54.1
18/06	60.2	63.5	62.3	56.0	50.8	68.2	60.1	76.8	56.3	59.0
18/07	58.1	60.2	58.5	56.5	53.3	62.1	54.7	73.2	55.3	54.7
18/08	61.3	65.1	63.3	58.5	55.4	64.5	57.5	72.1	55.2	53.9
18/09	59.8	61.8	63.9	58.8	53.3	61.1	55.7	66.9	56.0	54.5
18/10	57.7	57.4	59.9	56.8	50.7	63.8	55.8	71.6	52.2	54.3
18/11	59.3	62.1	60.6	58.4	52.9	62.5	56.4	60.7	52.2	53.6
18/12	54.1	51.1	54.3	56.2	51.2	57.5	50.0	54.9	52.8	52.7

(出所) ISM: the Institute for Supply Management

18年12月のISM製造業景気指数(季節調整値)は、54.1と前月比5.2%ポイントの大幅な低下となった。先行き不透明感の強まり等を背景に新規受注が急激に低下したことで全体が下振れ、製造業部門の減速が示唆された。米中貿易戦争の継続や米政府機関の一部閉鎖など政治の混乱による悪影響への懸念が強まっているほか、世界景気の拡大ペース鈍化等の影響を受けた。

ただし、ISM製造業景気指数は、製造業の拡大縮小の分岐点である50を依然上回っているうえ、ISMによると54.1という水準はこれまでのGDPとの関係から、実質GDPが3.4%成長していることを示していると指摘しているように、米景気過熱の緩和を示唆しているに過ぎないと判断される。

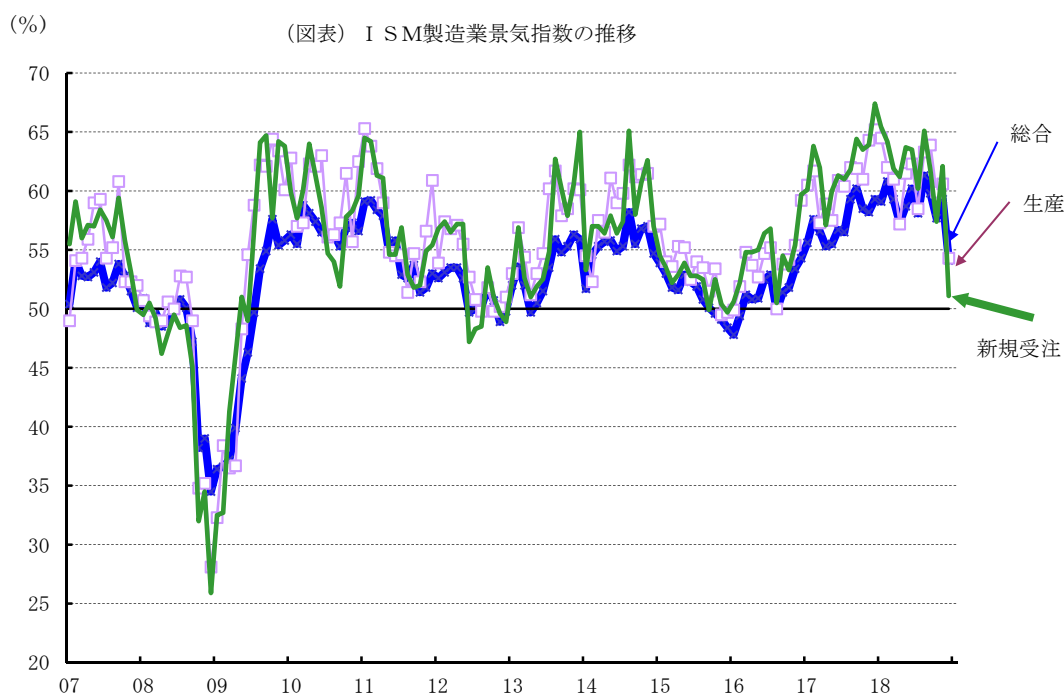
総合指数を構成する項目である新規受注、生産、雇用、在庫、入荷遅延は拡大縮小の分岐点である50を上回っているが、前月から低下した。構成項目別の総合指数への寄与度をみると、新規受注(前月比▲2.20%p)、生産(前月比▲1.26%p)、入荷遅延(前月比▲1.00%p)、雇用(前月比▲0.44%p)、在庫(前月比▲0.34%p)が押し下げ寄与となった。人手不足、悪天候、貿易戦争等で、雇用や入荷遅延が高水準で推移しているものの、重要項目である新規受注が先行き不透明感の強まりによって大幅に低下した。インフレ面では、ドル高やエネルギー価格の下落を受け仕入価格は前月から大幅に低下し、川上でのインフレ圧力が急激に弱まっている。

総合(全18業種、下線は拡大・縮小が2カ月以上続いたことを示す)で拡大した業種は、繊維、アパレル、一般機械、輸送機器、コンピューター・電子機器、木材製品、化学製品、食品・飲料・タバコ、その他製造業、電気設備・部品、一次金属の11業種と前月の13業種から減少した。企業からの報告では、引き続き米中貿易戦争などの悪影響・懸念が指摘されている。特に、拡大を続けている輸送機器、

コンピューター・電子機器でも、継続して需要の抑制につながっていることが報告されている。縮小した業種は、印刷・関連サポート活動、加工金属、非鉄、石油・石炭、紙製品、プラスチック・ゴムの6業種と前月の3業種から増加した。家具・同関連は変わらず。

19年は、貿易戦争の継続、人手不足の一段の強まり等によるコストの上昇、EUや日本との通商交渉の不透明感、中国経済の構造変化に伴う中期的な成長鈍化、海外需要の拡大モメンタムのピークアウトなど、需要の伸びを抑制する要因が残存すると予想される。このような中、米国では減税や歳出の拡大を背景に、雇用・所得・保有資産残高の増加等による個人消費の拡大が見込まれ、米景気は19年半ばにかけて堅調さを維持すると想定される。ただし、19年後半には、政策効果の弱まり、ドル高、金融環境の引き締め等の影響で減速すると予想される。

このため、19年のISM製造業景気指数は、米景気の堅調さを示す比較的高い水準から、徐々に低下すると予想される。



(出所) ISMデータより作成

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。